

風水害に備えましょう

間もなく風水害シーズンが到来します。事前の準備や情報収集方法、災害時の行動を確認し、風水害に備えましょう。



災害リスクを確認しましょう

鈴鹿市総合防災マップ(冊子版)

令和6年3月に、鈴鹿市防災マップを改定しました。
今回の改定では、これまでエリアごとに分かれていた洪水・土砂・津波・高潮の危険が想定される区域に関するマップを1冊にまとめました。市内の災害リスクを災害の種類ごとに確認できるほか、避難所の位置なども把握できます。

また、災害に対する心得を学習できる内容を掲載していますので、防災の便利帳としてもご活用いただけます。



ウェブ版総合防災マップ

パソコンやスマートフォンなどで利用できるウェブ版の総合防災マップです。

洪水・土砂・津波・高潮の災害種別の切り替え、重ね合わせ表示ができるほか、現在地取得、衛星画像など背景地図の切り替え、避難所までのルート検索、印刷、拡大縮小などが可能で、多言語に対応しています。



鈴鹿市総合防災マップ(冊子版)
90ページを参考に、わが家の
「マイ・タイムライン」を作りましょう。

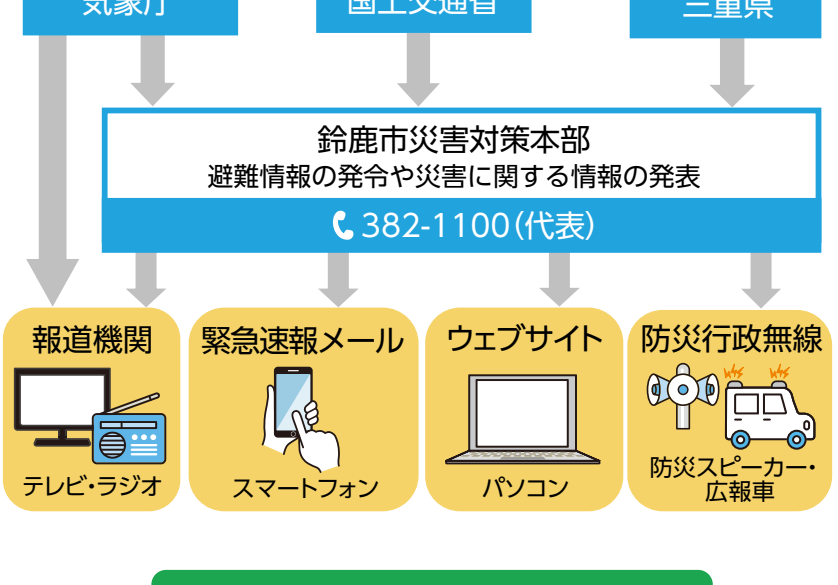


ウェブ版総合防災マップ (ページ番号1012864) Web General Hazard Map (外国語版 4カ国対応+やさしい日本語)

情報収集方法を確認しましょう

さまざまな情報収集の方法

台風や梅雨前線などによる大雨は数日前から予測することができます。事前に情報収集することで、災害に対する備えをしましょう。



鈴鹿市LINE公式アカウント

鈴鹿市LINE公式アカウントで災害情報の配信を行っています。ぜひご活用ください。

- QRコードから友だち追加
- 基本メニューで受信設定をタップ



- 「災害情報」の「受信する」を選択



気象情報や
避難情報が
届く

※ここに載せている情報収集方法は一例です。詳しくは、鈴鹿市総合防災マップ(冊子版)66・67ページをご覧ください。

確認すべき情報と避難のタイミングを確認しましょう

災害の警戒レベルに応じて取るべき行動が異なります。避難情報を収集し、速やかに行動しましょう。

災害の警戒レベル	気象庁などの情報			市からの避難情報	市民が取るべき行動
	高潮に関する情報	大雨・土砂災害に関する情報	洪水などに関する情報		
5	高潮氾濫発生情報	大雨特別警報	氾濫発生情報	緊急安全確保※	命の危険 直ちに安全確保! ・もしも安全な避難ができていない場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。
~~~~~ 警戒レベル4までに必ず避難してください ~~~~~					
4	高潮警報または高潮特別警報	土砂災害警戒情報	氾濫危険情報	避難指示 ・状況に応じて避難所を追加で開設します。	<b>危険な場所から 全員避難</b> ・台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。
3	高潮警報に切り替える可能性が高い高潮注意報	大雨警報 洪水警報	氾濫警戒情報	高齢者等避難情報 ・気象警報(大雨・洪水・暴風・高潮)発表時に自主避難所を開設します。	<b>危険な場所から 高齢者などは避難</b> ・高齢者など以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難する。
2	高潮注意報	大雨注意報 洪水注意報	氾濫注意情報	—	<b>自らの避難行動を確認</b> ・ハザードマップなどで自宅などの災害リスクを再確認する。 ・避難情報の把握手段を再確認する など
1	早期注意情報			—	<b>災害への心構えを高める</b>

※市が災害の状況を実実に把握できるものではないなどの理由から、必ず発令される情報ではありません。

## 市が開設する自主避難所を確認しましょう

気象警報(大雨・洪水・暴風・高潮)発表時に、合計27カ所の自主避難所を開設します。

- 地区市民センター併設公民館

20カ所

■単独公民館

3カ所
- 国府・庄野・加佐登・牧田・石薬師・稲生・飯野・河曲・箕田・玉垣・若松・栄・天名・合川・井田川・久間田・椿・深伊沢・鈴峰・庄内

一ノ宮・神戸・愛宕

.....

■小学校体育館

4カ所

長太・箕田・白子・鼓ヶ浦
- ### 避難所開設運営オリーブボックス
- 市では、避難所の開設および初期運営に必要な手順、資機材などをまとめたオリーブボックスを各基幹収容避難所(小・中学校体育館および武道館)に配備しています。
- 
- ## 非常持出品・備蓄品を準備しましょう
- 非常持出品や備蓄品は、鈴鹿市総合防災マップ(冊子版)68・69ページで確認しましょう。
- 避難時は、大雨や強風など普段と違う状況になるため、個人の体力に合わせて無理なく歩くことができる量を準備しましょう。
- 災害に備えた備蓄などについて詳しくは、本号5ページの特集をご覧ください。
-